

新列島改造様式

コロナ襲来で新しい生活様式が求められる。大イベントも軒並み見直され、高校野球の春秋甲子園は中止、東京オリンピック・パラリンピックは1年延長を余儀なくされた。悔しい、残念、断腸の思いだ。スポーツ、音楽、演劇、飲み会も、あらゆる分野で3密回避や自粛要請の荒波が押し寄せる。海外旅行もほぼ全面ストップ。そんな中で列島改造の大プロジェクトは各地で着々進む。東京-名古屋を40分で結ぶリニア新幹線は一極集中に拍車をかけないか。働き方改革でテレワーク、地方創生が叫ばれながら超高速事業と整合性はとれるのか。南アルプス自然破壊や大井川水系枯渇が懸念され「リニアは膨大な電力を消費し、電力源は原発を前提」(川勝静岡県知事)の指摘も心配のタネだ。

半世紀前の東京オリンピックで青空を台無しにした東京・日本橋上の首都高速道路は撤去するようだが、難工事の地下に建設し直すという。23区の外縁を回る外郭環状道路は、ほかにいくつも環状道が開通して渋滞が減っても交通量予測の見直しはない。東京の地下は穴ぼこだらけ。トンネル工事で地下水脈の乱れも心配される。この際、23区内の首都高は全廃する英断があってもいい。沖縄・辺野古は強硬工事を続ける事情もあるようだが、各地の原発は大事故の



長い時間の積み重ねで開発進むリニア新幹線 = 2003年10月、山梨県都留市の実験線で写す

恐怖をよそに持続するパワーはあまり衰えていない。国策レベル事業は一度決めたら変更、中止はなかなか難しいか。

新生活様式の列島改造をどうするか。超高速リニア+高速道路の建設か、地方鉄道やバスの充実か。経済学者・宇沢弘文は岩波新書「自動車の社会的費用」で、鉄道より道路建設が優遇され車社会を招いたと説く。各地の路面電車、都電は廃止されて生活環境は良くなったか。車優先の象徴、歩道橋は老朽化で撤去され始めた。少子化が進みコロナで社会情勢が変わる。人間社会の未来のために、都心回帰か地方分散か、いま勇気をもって考え直すチャンスだ。

文・写真 林 莊祐